

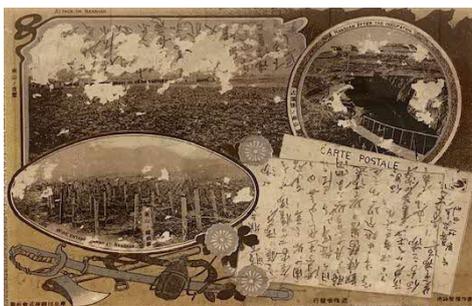
松江市立鹿島歴史民俗資料館だより

No.38

2023年12月発行

■ 特別展「茶色い戦争ありました—軍事郵便と鹿島の戦争—」開催中です！

鹿島町御津出身の門田喜一さんは20歳で浜田第21連隊に入営、3年後に満期除隊するも、翌年日露戦争に出征、終戦直前に奉天付近で25歳で戦死しました。浜田連隊また戦地から兄に送り続けた手紙から明治期の軍隊生活が垣間見えます。連隊の野外演習では山口、広島まで徒歩で出かけています。展示では手紙の記述に即して演習経路を地図で紹介していますが、当時の兵士がかなりの距離を歩いたことが分かります。



戦地から送った手紙の数々。中には、激戦地の風景を絵葉書にしたものもある(左上)

太平洋戦争には、鹿島町内からも数多くの人々が出征しました。また、所有する船とともに軍属として戦地に赴いた船員もいます。実施はされなかったものの、人間機雷「伏龍」の訓練を受けた方もいました。



人間機雷「伏龍」図解(右)。兵士が持つ棒の先につけた爆薬で上陸してくる敵の船底を爆破しようというもの。

日本では長く戦後が続くものの、世界ではロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルとイスラム組織ハマスとの軍事衝突など緊迫した状況が続いています。かつての戦争の記録を見て、もう一度、平和について考えてみてはいかがでしょうか。特別展は1月14日までです。ぜひご来館ください。

■ 新年特別開館のお知らせ

新年も1月1日に特別開館します。この日のみ入館料は無料となります。

特別展「茶色い戦争ありました—軍事郵便と鹿島の戦争—」を開催中です。

発行 令和5年12月 松江市立鹿島歴史民俗資料館

〒690-0803 松江市鹿島町名分1355-4 TEL/FAX 0852-82-2797